

ぼくがバレーボールを続けるわけ

萩小・4 清水 颯大

「君はバレーボールをずっと続けるんだよ。すごくいいサーブを打つから、バレーボールをやめちゃだめだよ。」

ぼくは三年生のときに、豊橋のバレーボールの強いチームのかんとくさんから言われました。とてもうれしかったです。ぼくがバレーボールをがんばる時に、ときどき思い出す言葉です。

ぼくは、1年生の時に習い事でバレーボールを始めました。今、バレーボールがとても楽しいです。何が楽しいかというと、みんなといっしょにプレイが出来ることです。バレーは一人ではできないスポーツです。自分のコートに、敵はいなくて仲間がいます。サーブをひろって、それを仲間がいっしょけんめいひろって、つなげて、点が決まった時、とてもうれしい気分になります。特に、ラリーがたくさん続いた時に点が決まると、みんなのふんいきももり上がって、楽しいです。

ぼくは、バレーの試合の中で弱気になることがあります。相手チームの強いサーブやアタックが来そうな時、「強いのが来るかな。取れないかもしれない」と思ってしまいます。弱気になると、自分が取れるボールなのに他の人にまかせてしまったり、体がかたくなつて動きが悪くなったりしてしまいます。だからきんちようした時や弱気になった時は、大きい声を出すようにしています。そうすると、強い気持ちがあわいてくる気がするのです。仲間のプレイにもたくさん声をかけるようにしています。

ぼくのバレーの武器はサーブです。ぼくは左利きなので、相手チームはいやがります。サーブで点を決めるために、回転をかけずに打つこと、コートの後ろの方のすみねらうことを目標に、家でも自主練習をしています。自主練習は、夏休みのるす番中も、お姉ちゃんといっしょに続けています。二人でアンダーやオーバーでパスをつなげたり、おたがいにトスを上げてアタックを打ったりしています。かたのけがをしないように、ゴムチューブでストレッチをしています。かたを強くして、強いサーブやアタックが打てるようになります。

夏休みの終わりに開きいされる、東三大会の五・六年生のチームのメンバーに、ぼくは選ばれました。ピンチサーバーで出られるチャンスはあると思うので、その時のために、一つ一つ考えてサーブの練習をしています。あと、ミスをするとうちのチームの音がどんどん小さくなってしまっているので、大会では、ぼくの大きな声で流れを変えていこうと思います。

六年生になったら、ぼくがチームを引っばっていきたくいです。他の子がだらだらしていたり、変なところに行ったりしていたら、とてもだらしがないし、バレーを始めた時から、あいさつや礼儀をコーチから教えてもらってきたので、しっかり声をかけてまとめていきたいです。そして、高いトスや低いトス、高さがちがっても必ず打って、ミートもかけられる、そんなアタッカーになりたいを思っています。みんなにたよられるエースアタッカーになりたいです。特に、ブロックをぬけて、バックをねらえるエースアタッカーになりたいです。また、ブロックは、打ってくる人の手の動きを見て、手の位置をずらして相手のコートに落とし、たくさん点を取りたい

です。もし止められなくても、手に当てて、仲間がレシーブを取りやすくしてあげたいです。相手がフェイントをしてきたら、とばずに、

「ツー。」

というかけ声を出して、取りたいです。

ぼくのゆめは、バレーボールの強い高校に入って、春の高校バレーに出ることです。そのためには、たくさんの練習をすることも大切ですが、自分がバレーをやることにいつも感しゃして、コーチやお父さんやお母さん、周りの人に「ありがとうございます」といつも伝えることをわすれずに、やっていきたいです。

バレーボールを続けていて、コートの中の六人と力を合わせてプレイができてるのがとてもうれしいです。ベンチにいても、選手の一員なので、コートに出されていらないと思わずに、みんなのおうえんを意しきしていつまでもバレーボールを続けていきたいです。